

くだものに込められた想い

目黒区立原町小学校 五年 浜宮 珀

世界一大きなかんきつ類（大きさが約二十センチ）とよばれる「ぼんぺいゆ」を知っていますか？ぼくは、親せきのおばさんが熊本に住んでいたもので、毎年秋になると届くこのサツカーボールくらいの大きなみかんが大好きでした。

でも、昨年の秋にはこのぼんぺいゆが届きませんでした。「食べたかったのにどうして昨年は届かなかったの？」と母に聞くと、これは、おばさんがどこかで買ってくれていたのではなく、おばさんが数年前から自たくの庭で、大切に育ててくれたぼんぺいゆであることと、そのおばさんが亡くなり、昨年は送ることができなくなってしまうことを知りました。

調べてみると、もらっていたような大きなぼんぺいゆを自分の庭で育てるには、初めて実ができるまでに約2年、しかもその時には一〜二個できれば大成功。そこからも毎年、肥料をやり、雑草をとったり、つきすぎたつぼみや花をとる作業など、たくさんの工程があることを知りました。

毎年食べていたぼんぺいゆにこんなにも大変な作業があったこと、何よりもおばさんのぼくたちを想う優しく温かい気持ちがあったことを知りました。ちなみに今年はそのおばさんの想いを引きついで、近所のおばさんがお世話を始めてくれていたそうです。

このことを通して、ぼくはぼんぺいゆに限らずいつも何気なく食べているくだものにも、生産者の方のたくさんの想いやそれを支える周囲の人の願いがあるのでないかと思いました。

副読本を読んで、農業で働く人の減少と高れい化が課題であることが分かりました。だからこそ、くだものが食べれることは当たり前ではなく、感謝の気持ちをもつて、これからもくだものをたくさん食べていきたいです。